



金星を見よう!

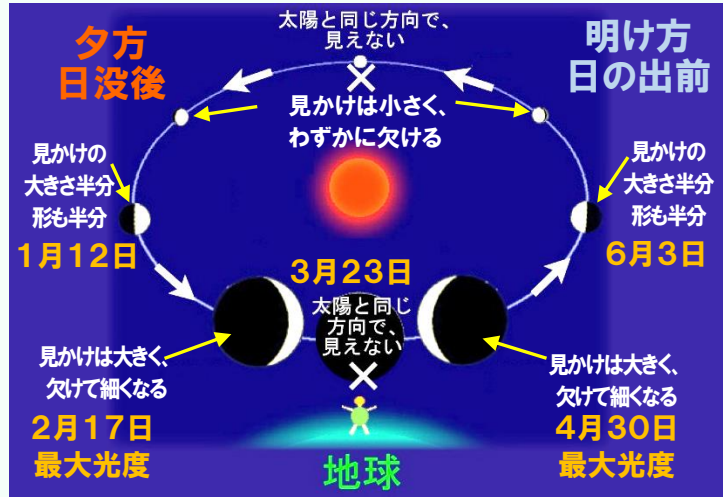
夕方西の空に「一番星」金星が見えます。この金星を望遠鏡で見ると月のよ
うに欠けて見えます。肉眼で、望遠鏡で金星を見てみよう!

金星はどこに見える?



金星は、2月末まで日没後の夕方、西の空に見えます。2月17日には-4.6等と最も明るくなります。3月上旬には見える位置が低くなり、3月下旬には見えなくなります。

金星の見え方 夕方または朝



金星が見えるのは、「夕方西の空」か「明け方東の空」のどちらかです。しかし、地球から見ると太陽と重なる位置にある時には、金星は見えなくなります。

望遠鏡で見た金星の形と大きさ

金星を望遠鏡で見ると、月のように満ち欠けするのがわかります。満ち欠けするのは月と同じ理由で、太陽の光に照らされる風間の部分だけが見えるからです。地球と金星との位置、距離の変化で金星の見かけの形と大きさも変わります。右の写真はディスカバリーパーク焼津の大型望遠鏡で撮影した金星です。

ディスカバリーパーク焼津の望遠鏡で見た金星

(望遠鏡では、上下左右がさがさまに見えます。)



2016年6月から2017年にかけて、金星と地球との距離が近くなり、望遠鏡で見ると金星が大きく見えるようになりました。これからさらに大きくなり、形が欠けていきます。2月下旬になると、右上の写真のような金星が見えるようになります。

土日もやっつるよ!



天文台見学会で金星を見よう

県内最大の望遠鏡を紹介します。天気がよければ、風間の星を見ることができます。開館日の13:00、14:00、15:00、16:00参加無料、定員各回30人 ※申込先着順 ※当日、1F受付にて先着で整理券配布

金星はどんな星?

金星の大きさは地球と同じくらいです。表面は雲でおおわれていて、気温は約470度もあります。©NASA

